

頑張る 農業法人

綾部市で複数の集落と連携し、特別栽培米を生産する「株式会社アグリテックいかる」。農地集積による規模拡大により、同市では有数の大規模経営体となって地域農業をけん引している。

将来的には地元特産物を提供できる直売所や飲食店の展開など、地域に人が集う場を提供したいと大きな夢を持つ。

同社の経営は同市西部の小貝町を中心に、隣接する私市町、石原町にまで展開する。これらの地域は平坦な地形で、水稲や小麦・小豆などの土地利用型作物の栽培が盛んだが、小貝町や私市町は由良川による度重なる氾濫に遭ってきた。

2013年の台風18号では、水田横の堤防が決壊し土砂が流入して収穫皆無となった。災害復興のため次年度の作付けを断念しなければならなかったことに加え、農家の高齢化も進み、同社に農地を預ける動きが加速化している。

同社は、品目横断的経営安定対策が導入された07年に地域の認定農業者3人が共同で立ち上げた任意組織が前身。その後、小貝町、私市町、石原町の将来について、京力農場プランの策定を通じて話し合いを重ねる中で、今後の経営の安定と後継者育成のために、14年1月に行政やJ A京都にのくになどがサポートし法人化した。

構成員は6人、代表取締役を務めるのは横山侃さん(73)。常時雇用者

(株)アグリテックいかる 綾部市

ライスセンター施設を背景に地域農業振興に励む横山代表取締役



水害めげず規模拡大

夢は“地域に憩いの場”

同JAを通じた販売の他、直売にも力を入れる。水稲の品種は「コシヒカリ」が14・6割、「新羽二重糯」が0・8割、酒造好適米「祝」が0・9割で、「コシヒカリ」は省力化のため直播(ちよくは)栽培とし、同JAの特別栽培米として出荷する。

省力化のための大型コンバインや、品質向上に向けた色彩選別機の導入など設備投資にも積極的だ。

横山さんは「水害の多い地域で今後も農地を預けたいという声が高まる。農地中間管理機構や関連事業を積極的に活用して、規模拡大を一層図っていきたい。これからの稲作経営は厳しくなるが、最先端技術を駆使し、販売先を選定した売れる米づくりにしっかりと取り組んでいきたい」と熱く話す。

2人と農繁期のパートタイマー2人で運営する。

水稲16・3割、小麦0・8割の農作業受託と、約7割を中心に、小豆、白大豆を生産する他、延べ20割分のライスセンターの運営を行う。生産物は

法人住所 綾部市小貝町 坪上通21。電話 0773-48-0606